令和７年度

自 己 評 価 結 果

学校法人愛海学園
幼保連携認定こども園
アリス幼稚園

1. 保育理念

・就学前の子どもの発達段階に応じた教育・保育を一体的に行い、生涯にわたる人間形成の基礎を培う。

2. 保育方針

・すべての子どもにひとしく、笑顔と子どもの幸せを保障する。
・子どもの視点に立って、一人ひとりの健やかな育ちを守る。
・子育ての大切さをみんなで認め合い、子どもと子育て家庭を支援する。

3. 保育目標

心身ともに健康で感性豊かな子どもを育てる

①「体」心も体もたくましい子ども・・・心身ともに健康で感性豊かな子
②「知」賢い子・・・・・・・・・・・・・自分で考え工夫する創造性豊かな子
③「情」やさしく思いやりのある子・・・豊かな心で感じる子ども
④「意」意思の強い子・・・・・・・・・生き生きと主体的に活動する子

4. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

・学期ごとのクラス懇談会や保育参観、全クラス個人面談の機会を設け、保護者と丁寧に関わり、信頼関係を築きながら、家庭と園とで子どもの育ちを支えていく。
・園内研修の内容の充実

5. 評価項目の達成及び取組状況

評　価　項　目		結果
教育課程・指導	(1) 建学の精神や教育目標に基づいた幼稚園の運営状況	A
	(2) 幼稚園の教育課程の編成・実施の考え方に関して教職員間の共通理解をはかる。	A
	(3) 幼稚園行事の管理・実施体制の状況	A
	(4) 年間の指導計画や週案などの作成状況 ・長期的計画（年・期・月） ・短期的計画（週案） ・３歳児未満（0～3歳）個別指導計画の作成 ・教育・保育内容などの評価・反省	A

	(5) 幼小連携の円滑な接続に関する工夫の状況 ・認定こども園園児指導要録を作成し、就学の際は小学校へ送付 ・小学校教育への円滑な接続に向けて、小学校の児童との交流や小学校教師との意見交換の機会を設け連携を行う。	A
	(6) 遊具・用具の活用 ・発達段階に即した遊具や用具の設定	A
	(7) 保育教諭間の協力的な指導の状況	A
	(8) 乳幼児に適した環境に整備されているかなど、学級運営に即した指導の状況	A
	(9) 認定こども園の内容に沿った乳幼児の発達に即した指導の状況 ・環境を通して行う幼稚園教育・保育の実施の状況 ・乳幼児との信頼関係の構築の状況 ・乳幼児の主体的な活動の尊重 ・遊びを通しての総合的な指導の状況 ・一人一人の発達の特性に応じた指導の状況	A
保健管理	(10) 法定の学校保健計画の作成・実施の状況、学校管理衛生の管理状況	A
	(11) 日常の健康観察や、疾病予防のための取組状況 ・SIDS（乳幼児突然死症候群）防止のための観察・記録・必要な措置 ・健康観察、定期的な検温・手指消毒・手洗い ・与薬する場合の対応（与薬依頼書の記入・薬の管理・誤飲防止対策）	A
	(12) 健康診断及び歯科検診の実施の状況	A
	(13) 法定の学校保健計画の作成・実施の状況、学校衛生の管理状況	A
安全管理	(14) 事故等の緊急事態発生時の対応の状況	A
	(15) 法定の学校安全計画や、防災計画の作成・実施の状況	A
	(16) 危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	A
	(17) 安全点検や、教職員の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	A
組織運営	(18) 管理職の教育目標等の達成に向けたリーダーシップの状況、また、他の教職員からの信頼の状況	A
	(19) 幼稚園の明確な運営・責任体制の整備の状況	A
	(20) 勤務時間管理等、服務監督の状況	A
	(21) 各種文書や個人情報等の幼稚園が保有する情報の管理の状況、また、保育教諭への情報の取扱い方針の周知の状況	A
	(22) 労働基準法等の各種法令の厳守状況	A

研修 （資質向上の 取組）	（23）保育研究の継続的実施など、指導改善の取組の状況	A
	（24）園内における研修の実施体制の整備状況	A
	（25）園内研修の課題の設定の状況	A
	（26）園内研修・園外研修の実施・参加状況	B
	（27）指導が不適切である保育教諭の把握と対応の状況	A
	（28）上級免許や他の資格等の取得状況	A
保育目標 学校評価	（29）保育目標の設定と自己評価の実施状況 ・乳幼児や保育園の実態、保護者の意見・要望等を踏まえた幼稚園としての目標の設定の状況 ・目標等を踏まえた自己評価の項目の設定の状況 ・自己評価が年に１回以上定期的に実施されているかなどの実施状況 ・自己評価の結果の翌年度の目標等の改善への活用状況 ・全職員が評価に関与しているかなど体制の状況 ・設置者への報告（自己評価の結果）の状況	A
	（30）学校に対する保護者の意見・要望等の状況 ・保護者の意見や要望の把握・対応状況	A
情報提供	（31）幼稚園公開の実施の状況	A
	（32）乳幼児の個人情報の保護の状況	A
	（33）自己評価結果の公表状況	A
	（34）園だよりやクラスだよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の提供情報	A
	（35）情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	A
子育て支援	（36）地域や保護者の実情や要望による幼稚園の子育て支援活動の実施状況	A
預かり保育	（37）保護者の実情や要望による預かり保育の実施状況	A
	（38）園や教職員による受け入れ体制の状況	A
教育環境整備	（39）施設・設備 ・施設・設備の活用状況 ・施設・設備の安全・維持管理のための点検の取組の状況 ・施設・設備の安全・維持管理のための整備の状況	A
	（40）遊具・用具・図書等 ・遊具・用具・図書等の整備の状況 ・保育環境の充実のための取組状況	A

6. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

A	・幼稚部は、一、二学期に保育参観、三学期に個人面談の機会を設け、保育部は、個人面談を行い、保護者の思いに寄り添い子育て相談など、保護者に努めた。また、保護者と園での教育活動の様子や子どもの育ちを共有しつつ、発達に関して必要に応じ専門機関と相談し支援につなげ、個々の発達に寄り添った保育に努めた。 ・保育部では、職員間で年齢に応じた手作り玩具の研究を行い、遊びの内容の充実を図った。手先を使った遊びや足の裏の感触遊びなど、発達段階に合わせた遊びを展開した。子ども達は興味津々で遊びを楽しみ、ゆったり落ち着いた雰囲気の中で保育を展開できた。 ・行事を通して、保育部と幼稚部の交流をし、子どもや職員との交流を楽しめた。次年度も機会を作り計画的に取り入れていきたい。 ・園内研修を通して、園の教育方針や特色を理解し、カリキュラムの内容を職員間で理解を深めた。実践的な研修内容が不十分な面があり、次年度への課題とする。 ・令和8年度架け橋期プログラムの実践に向けて、保幼こ小の合同会議に参加し、架け橋期カリキュラムの作成に取り組んだ。7月に島袋小学校と七夕会、2月に北中城・島袋小学校へお招き会に参加するなど、交流を楽しむことができ、就学に対する期待が高まり、安心して入学式を心待ちにする姿が見られた。 ・7月30日にカムチャッカ半島付近で発生した地震による津波注意報が9時40分頃発令され、津波到達時間が午後昼過ぎ頃を予測された。注意報ではあるが園舎が沿岸から近い場所で津波の影響を受けやすいこと、状況によっては警報に変わる可能性も視野に入れ、注意報ではあるが臨時休園を決定し、アプリ機能を利用して保護者へ連絡した。その際、アプリの使い方、メッセージ閲覧の仕方が分からない保護者が数名いた為、電話での連絡も合わせて対応した。 今回の経験から、津波注意報に対する園の対応の理解と、園からの情報は発信ツール（アプリ）の使い方の周知が課題となり、二学期のクラス懇談会で保護者へ園の対応の理解とアプリの使い方の周知を行った。12月に防災訓練として、アプリを使って保護者へテストメールを送信し、使い方の確認も行った。

7. 今後取り組むべき課題

課　題	具体的な取り組み方法
保護者支援	・前年度同様に学期ごとの保育参観や懇談会の機会を作り、園の教育内容や子どもの育ちを共有していく。また、個人面談の時期を早めに設定し、保護者との信頼関係を築き、子どもの成長を支えていく。
職員の資質向上の取組	・実践を兼ねた研修内容の充実 ・個々の発達段階の理解に努め、それに合った遊びの展開や工夫、遊びの研究をする。

◎「5. 6.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である